

新書の早読みが読書意識へ与える影響

岡田 圭 二

要 約

新書版の書籍を30分の時間内に100ページ程度読み、その内容を報告書にまとめ、発表するという訓練をこれまで行ってきた。その訓練の内容を報告すると共に、訓練を受けた学生に行った読書に関するアンケートの結果を報告する。そして最後に、今後の検討点等を述べた。

1 序

これまで、短大部の授業において、新書の早読みという活動（以下、早読み演習とする）を行ってきた。これは、10年ほど前にあるコラム（本論文執筆時に調査したけれども、掲載誌や著者名が不明となった）に紹介されたゼミ活動を模した訓練である。その紹介されていたゼミ活動とは、教員が用意した何十冊かの新書の山の中から、学生が適当に1冊を取り、1時間程度（原文が不明のため、正確な時間は不明）の時間内で、その1冊の新書を読み上げ、報告するというものであった。新書を1時間程度で読み上げるのは、学生にとって大変だが、訓練の効果が高い印象を受けたという紹介がしてあった。

このコラムを読み、その後、文献購読の演習、卒論ゼミ、1年生向けの導入ゼミ（勤務先の学部では基礎演習、発想議論演習）などにおいて、この新

書の早読み演習を学習の一環として取り入れ、7、8年が経つ。多くの学生の変化の観察、また学生からの授業に関する感想において、学生の能力の改善や良い方向への変化を感じてきた。また早読み演習の運用からいくつか気づいたこともある。

本論文では、第1に早読み演習の実際について紹介し、第2に学生への早読み演習に関する意識調査の結果を報告し、最後に今後の検討点と総括を行う。

2 早読み演習の実際

私の行った早読み演習の流れは、6つの段階に分けることができる(表1参照)。まず学生が図書館にて新書を借りてきて、その新書を学生全員から教員が集め、無作為に学生に配布する。学生は、自分以外の学生が借りてきた新書を受け取り、30分の制限時間内に、指定されたページ数を読み、その内容のまとめと感想を書いたA4一枚の報告書を作成する。制限時間の経過後、学生は報告書を隣の学生、例えば右隣の学生に渡し、別の学生の報告書

表1 早読み演習の進展

| 段階 | 内容 | 期待される教育効果 |
|------|--|---|
| 第1段階 | 学生が図書館にて新書を借りてくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館に慣れる。 ・新書の並びを見て、興味を拡大させる。 |
| 第2段階 | 学生が借りてきた新書を集め、その後、学生にそれらの新書を無作為に配る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心を拡大する。 ・同学年の女子学生の関心を知る。 |
| 第3段階 | 学生が無作為に割り当てられた新書を30分間に渡り読み、同時に報告書を書く | <ul style="list-style-type: none"> ・速く読む技術を獲得する。 ・集中して読むことに慣れる。 ・報告書の作成に慣れる。 |
| 第4段階 | 書かれた報告書を学生の間で回覧する。その後、数名の学生に内容と感想を口頭にて発表させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・上手い報告と下手な報告を知る。 ・口頭発表の技術を習得する。 ・自分の選んだ新書への評価を得る。 |
| 第5段階 | 新書を集めて、借りてきた学生に返す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな新書にどんな学生が興味を持っているのか知る。 |
| 第6段階 | 次週のために、再度、図書館にて新書を借りに行く。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が借りてきた新書を読む。 ・図書館に慣れる。 |

の内容やレイアウト等に注意するように教示される。他の学生の報告書を何枚か閲覧したのち、3、4人の学生が口頭にて、新書の内容の報告、感想を発表する。その発表が終わったら、新書を回収し、新書のタイトルを読み上げながら、回収した新書を元の借り主である学生に返した。

以下に、この各段階の手続きと内容、そして教育効果、気づき、注意すべきことについて報告する。

● 第1段階：図書館での新書の借り出し

初回の授業にて、図書館の新書が並べてあるコーナーへ連れて行き、新書についての説明をする。現勤務先の短大生の場合、1年生に入ってきた段階において、文庫本については分かるけれども、新書といわれた場合にどのような本を指すのか分からない、知っている気がするけれども自信がないという学生が多い。このとき、新書のテーマに硬軟が取り混ざっていることを具体的に示してやると興味関心を引いているようである。恋愛、料理、旅行などの内容があることや同時に政治、経済、社会問題といった内容の新書があることなども示した。そしてどんなテーマのものを借りてきても大丈夫だと教示する。ただし、写真がほとんどの内容を占めるような新書はまとめにくいため、遠慮して欲しいと伝える。また文庫と新書が違うことを具体的に示さないと、文庫を借りてくることもよく起こる。

● 第2段階：新書の配布

学生から新書を教卓に集める。順番を入れ替えるために、大雑把に積み直して、その後、新書を学生に配る。どの新書が配られるかは無作為に決定されている。この段階で、個々の学生自身が借りてきた新書が配られた場合、隣の学生と交換しなさいと指示する。

多くの学生が、今日は難しそうだとか、おもしろそうだとかという感想を隣の学生と言い合っている。

● 第3段階：早読み、報告書の作成

30分という制限時間内で新書の早読みとその内容と感想に関する報告書の作成を行わせる。初回から数回にわたって、早読みの方法と報告書の作成についての諸注意を指示する。

早読みに関しては、以下のような指示をしてきた。まず第1に、早く読むためにはどのような点に注意して読むべきかを各自が意識的に考え、工夫することが大事であるという点である。その指示を前提に、教員からは、読む前の注意として、①目次、表示、あとがき、表紙カバー裏の導入文、著者プロフィールなどを読み、内容についてのアタリや予測、概略の目処をつけること。②本のタイトル、章タイトル、見出しを重視して内容を想像すること、③図や表は掲載に経費がかかるため、重要な内容を示す時に使われるから、よく見ることなどを与えている。読んでいる最中については、①重要でないと判断、予測したら飛ばして読んでも、この早読み演習では構わない、②心の中で音読していると遅くなるため、目で読みなさい、③著者の伝えたい内容を予測し、考えながら読みなさい、その際に、あくまで早読みの習得が目的であるからその予測の正誤にとらわれすぎないようにしなさい、といった注意を与えている。この時、あくまでもこの早読み演習での読み方で、すべての読書に一般化するものではないという注意も与えている。それは、精読が必要な場合や、文を味わうような読書、音読などとは早読みが異なることを意識してもらいたいという考えから行った。

報告書の作成に関しては、次のような指示をしてきた。まず第1にレイアウトに注意をすることを指示した。報告すべき内容をどのようにA4のレポート用紙に並べ、内容の固まり毎に、空間的にまとまりを作るかを意識しなさいと指示し、タイトル、報告者名、導入のまとめ、章ごとのまとめ、感想の書き方の例を示した。第2に、報告先の相手にとって分かる文章、レイアウトになっているかを考えなさいと指示した。第3に読んだ本の文章の抜き書きではなく、自分の言葉に直して書きなさいと指示した。その際に、あ

る内容の文章が重要だと判断して写すことと、それを自分の文章にすることは違う、判断は自動的に行われることが多いが、自分の文章にするには意識的かつ意図的に考えなければならないという指示をすることが多い。第4に、報告書の最後に感想を書かせる。その際に、単なる感情の発露（面白かった、興味深かった、つまらない）ではなく、どうしてそのように感じたのかという分析や、これまでの自分の経験や今後経験するかもしれない事柄に新書の内容を関係させてすなわちエピソードに絡めて感想を書きなさいという指示もしてきた。これは多くの就職活動をサポートする書籍に、自己紹介、自己分析においてエピソードに絡めない自己紹介や自己分析は説得力がないという指摘があり、そのための訓練として行わせた。

報告書を作りながら、早読みをすると、読書が遅くなるため、まずは簡単なメモをとってから、残り10分程度の段階において、報告書を作成しなさいという指示も与えてきた。ただし、学生は必ずしもこの指示どおりには報告書を作成していない。

指定した時間の5分前に、残り時間が5分であることを告げる。また終了時に終了の合図をする。

またこの30分の時間において、学生が普段見せない程度の水準で集中している姿をみる。大講義において私語をする姿、少人数であってもどこことなく上の空で講義を聞いている姿を目にすることが多い。そのような姿に比べて、早読み演習の際に読書に没頭する姿には感嘆する。

● 第4段階：報告書の閲覧、口頭報告

早読みが終わった後、作成した報告書を右隣もしくは左隣に回して学生同士で互いに閲覧させる。授業開始から3、4回の早読み演習において、このときに報告書の良否についてのコメントを教員から行う。読みやすいレイアウトや優れた報告内容を持つ報告書を指摘してやることにより、学生の報告書のレイアウトや報告内容が自然とある水準に揃ってくる。ただし、授業後

の感想を読むと、報告書の何が良くて何が悪いのか分かりにくかったという感想もあった。学生によっては、個別に指摘しないと自分自身の気づきとなりにくいタイプもいると思われる。

口頭発表において、新書のタイトル、内容のまとめ、感想を1分程度で発表するようにと指示した。早読みとは直接には関係ないけれども、①自分の声を聴衆に被せるようにイメージし、前を向いて、腹から声を出す、②発表の最後に「以上で発表を終わります」というようにという指示をした。これは、ぼそぼそと喋って声のとおりが悪い学生が多いこと、終わったのか終わらないのか分からない発言、発表が多いことから指示した。

● 第5段階：新書の返却

口頭発表の終わり、もしくは授業時間の最後に、新書を回収し、書名を読み上げながら、元の借り主に新書を返却する。このときに、各学生は、自分が読んだ本を誰が借りてきたのかが気になるそぶりを見せることが多々あった。そして、様々な書名を聞く際に、今度借りてみようと思ついたり、そんな本があるのかと関心を寄せているそぶりを見せたりしていた。

● 第6段階：新書の返却と借り出し

毎回、新しい新書を借りだして持ってくるように指示しているため、大半の学生は、1週間に1度は図書館へ行くことになる。その際に、1冊ではなく、2冊、3冊の新書を借りている学生も少数ではあるがいろいろである。ただし、少数の学生が他の授業の教科書や指定図書になっている特定の新書を何度も持ち込む場合がある。事情を尋ねると、図書館に行くのを忘れた場合や、借りたけれども自宅に置いてきてしまった場合もある。しかし、特定の本が何度も使われるのは、図書館に行かなくても手持ちの本でよいという判断を生み出し、図書館に慣れる、読書の幅を拡げるといった効果を低くする可能性があるため、授業で使っているこの本とこの本以外のものを借りてくるようにと指示した方がよいと考えている。

- 早読み演習全体をつうじて

このような早読み演習を半期12回程度、行うと学生の早読みの速度は明らかに上昇する。初回は10ページ程度読めたら、早いほうである。最後には、大半の学生が50ページ以上、早い学生だと100ページ前後を読み、報告書をまとめている。報告書の内容も、新書の内容を過不足なく報告しており、要点はとらえている。

3 早読みに関する調査の結果

前項において紹介した早読み演習が学生の教養の幅を拡げたり、読書や報告の技能を高めているという実感を、実施者として強く感じる。また学生からの感想等においても、身になったという声を聞く。そこでその実験がどの程度のものなのか、質問紙調査を行った。その結果をここに報告する。

3-1 目的

早読み演習を受けたことが読書に関する意識に与えた影響を、早読み演習の参加者がどのように感じているかを明らかにする。

3-2 方法

被調査者：愛知大学短期大学部1年生23人であった。全員が女性である。

質問項目：以下の表の通りである（質問紙については、論文末の資料を参照）。

大きく分けると、①被調査者のプロフィールに関する質問群、②読書行動、読書意識、報告書に関する質問群、③早読みに関する質問群、④報告書の作成に関する質問群であった（表2参照）。

用紙：B4サイズ用の紙1枚にすべての質問と回答欄を印刷した（補助資料を参照）。

方法：集団調査であった。基礎演習の授業中に調査用紙を配布し、10分程度の時間内に回答してもらい、回収した。

表2 質問項目の内容

| 被調査者のプロフィール | 読書行動、読書意識、報告書(7件法) | 早読み(7件法) | 報告書(7件法) |
|--|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・性別(男・女) ・年齢(才) ・この1ヶ月に何冊の本や雑誌を買いましたか(冊) ・この1ヶ月にどの程度の金額の本を買いましたか(円) ・あなたの部屋にはどの程度の冊数の本がありますか(冊) ・好きな作家の名前を書いてください。 ・高校3年生の1年間に新書の本を読んだことがありますか(はい、いいえ) | <ul style="list-style-type: none"> ・読書が好き ・暇があれば本を読みます ・国語は好きな科目です ・本は読みません ・本を読むことは面倒です ・本を読むのは遅いです ・読書は苦手です ・レポートは得意です ・作文は嫌いです ・日記(含むブログ)を書いている ・人付き合いは得意です ・特定の作家の本をよく読む ・好きな作家がいます ・年上と話すことが苦手です | <ul style="list-style-type: none"> ・本を読むことが早くなった ・本を読むことが好きになった ・図書館に馴染んだ ・授業以外にも新書を読んだ ・この訓練をうけて良かった ・いろいろな本を知ることができた ・世界が広がった気がする ・今後も新書を読む気がする | <ul style="list-style-type: none"> ・報告書を書く自信がついた ・文章のまとめに自信がついた ・前よりもレポートの執筆が上手になった ・読む人のことを意識するようになった ・変わらない気がする |

3-3 結果

結果は、表3から表6のとおりである。表3の被調査者プロフィールから、被調査者は短大1年生であることが分かる。また、高校3年生の時に新書を読んだ経験がある者は半分以下の人数である。個別の回答を見ると、自室に本がない者が6人いることも分かった。

次に、表4の読書経験、読書意識、報告書に関する意識項目を見ると、本を読むのが遅い、読書が苦手、作文は苦手という項目への評価得点が高いことが目につく。日記(含むプロフ)を書いていることに関する評価得点が高い。このことから、日常的に文章を書く習慣があるけれども、作文には苦手意識を持っているらしいことが推察される。

表5の早読みに関する結果をみると、「本をよむことが早くなった」、「図

書館に馴染んだ」、「この訓練を受けて良かった」、「いろいろな本を知ることができた」といった質問項目の平均評定値が高かった。ただし、「授業以外に新書を読んだ」の評定値はその他の評定値に比較しても極端に低い。

表6の報告書に関する結果を見ると、「前よりレポートの執筆が上手になった」の平均評定値が若干高めである。「変わらない気がする」の得点が低く、多くの学生が報告書作成に関して、自らの技能や意識の変化を感じていると推測される。

授業に関する感想を最後に書いてもらったところ、①最初は面倒だし、嫌だという気持ちだったけれども、最後には慣れたという感想、②報告書の良否について、個別の指導がないため（他の学生のレポートを見て、全体的な注意しかない）何がよくて何が悪いのかわかりにくかったという感想などが目についた。また過去に同様の早読み演習を行った際に、③短い時間だが集中して取り組むのが心地よかったという感想をもらったこともある。

表3 被調査者のプロフィールに関する結果 (N=23)

| | 性別 | 年齢 | 1ヶ月購入冊数 | 1ヶ月購入金額 | 自室所有冊数 | 高3時に新書の読書経験あり |
|----|----|-------|---------|---------|--------|---------------|
| 平均 | 女性 | 18.4歳 | 1.8冊 | 648円 | 18冊 | 9人 |
| SD | | 0.5 | 1.5 | 646.9 | 15.4 | |

表4 読書行動、読書意識、報告書に関する平均評定値 (N=23)

| | 読書がすぎ | 暇があれば本をよむ | 国語は好きな科目です | 本は読みません | 本を読むことは面倒です | 本を読むのは遅いです | 読書は苦手です | レポートは得意です | 作文は嫌いです | 日記(含むブログ)を書いている | 人付き合いは得意です | 特定の作家の本をよく読む | 好きな作家がいます | 年上と話すことが苦手です |
|----|-------|-----------|------------|---------|-------------|------------|---------|-----------|---------|-----------------|------------|--------------|-----------|--------------|
| 平均 | 3.7 | 2.6 | 3.5 | 3.7 | 3.7 | 4.6 | 4.3 | 2.7 | 4.8 | 5.3 | 4.3 | 2.3 | 2.2 | 3.5 |
| SD | 2.0 | 2.0 | 1.4 | 2.1 | 2.3 | 1.8 | 1.9 | 1.5 | 2.1 | 1.9 | 1.5 | 1.8 | 1.8 | 2.0 |

表5 早読みに関する平均評定値 (N=23)

| | 本を読むことが早 くなった | 本を読むことが好 きになった | 図書館に馴染んだ | 授業以外にも新書 を読んだ | この訓練をうけて 良かった | いろいろな本を知 ることができた | 世界が広がった気 がする | 今後も新書を読む 気がする |
|----|------------------|-------------------|----------|------------------|------------------|---------------------|-----------------|------------------|
| 平均 | 4.7 | 3.8 | 5.1 | 1.8 | 5.1 | 5.4 | 4.3 | 3.3 |
| SD | 1.3 | 1.5 | 1.7 | 1.6 | 1.5 | 1.2 | 1.2 | 1.6 |

表6 報告書に関する結果 (N=23)

| | 報告書を書く 自信がついた | 文章のまとめに 自信がついた | 前よりもレポー トの執筆が上 手になった | 読む人のこと を意識するよ うになった | 変わらない気 がする |
|----|------------------|-------------------|----------------------------|---------------------------|---------------|
| 平均 | 4.1 | 4.1 | 4.5 | 4.3 | 2.9 |
| SD | 1.4 | 1.4 | 1.5 | 0.9 | 1.3 |

4 今後の検討点

早読み演習の問題点として、アンケートから①授業開始時に、読書と聞いて嫌悪感を抱く学生がいる、②読書が好きになったという効果は低いという点がある。さらに、早読み自体ではないが③報告書の良否に関する具体的な指導を求める気持ちが学生側にある。これらの点についての指導や意識改善をどのように行うかは検討すべき点であろう。

指摘された①の嫌悪感に関しては、なぜ新書の早読みが大事かということの説明、早読みの教育効果等について話すこと、②の読書については時々、新書以外の軽い内容の本を混ぜることが効果を生む可能性があるだろう。③の報告書の良否に関する指導は、報告書へのコメントを行う、オーバー・ヘッド・プロジェクターにてスクリーン上に報告書を写しだして、具体的な良否の箇所の指摘を行うなどの工夫が考えられる。実際に、10人程度の少人数であった場合には、教卓となっている机の周りに学生を集めて、個別の

レポートの簡単な添削を行ってきた。人数や教室のサイズ、早読みに当てることのできる時間に制限がある場合は、工夫が必要だろう。

また、早読み演習が始まって数回のうちは、学生のやらされている感を強く感じることもある。早読み演習の効果がより目に見える形にして、例えばページ数や報告書を毎回綴じて、進歩の状況が明確に見えるようにしてやるならば、学生の態度も違ってくると予測される。

5 総括と感想

これまでの早読み演習の経験からの「早読み演習は学生の能力や知的な態度に大きな変化や伸びを与える」という印象をあるていど裏付ける調査結果であった。ただし、今後の検討点もある。

最後に、本論文における問題を指摘する。第1に早読み演習の元となった雑誌に載ったコラムを見つけられなかったことである。今後とも調査し、明らかになったならば、機会をみつけて、明確にしたい。第2に授業で用いた各新書の著者や発行者の立場からすると、本文を味わうことなく、読み飛ばすことを許し難いと思われる場合もあるだろう。学生には、読み飛ばした部分があること、著者や発行者への配慮と謝意について、伝えていきます。

6 補助資料

アンケート用紙

2009/06/18

新書の早読みに関する調査

短期大学の岡田圭二です。新書の早読みに関する調査にご協力願えません。回答は個人が特定されない形で集計し、集計のあとシュレッダーで廃棄します。回答は研究にのみ利用します。

以下の回答において、選択肢には○をつけ、記入欄には文字、数字等を記入してください。

1. あなたについて教えてください。

- 1-1. 性別 (男・女)
- 1-2. 年齢 (才)
- 1-3. この1ヶ月に何冊の本や雑誌を買いましたか 約 () 冊
- 1-4. この1ヶ月にどの程度の金額の本を買いましたか 約 () 円
- 1-5. あなたの部屋にはどの程度の冊数の本がありますか 約 () 冊
- 1-6. 好きな作家の名前を書いてください。
()、()、()、()
- 1-7. 高校3年生の1年間に新書の本を読んだことがありますか (はい、いいえ)
- 1-8. あなたの読書に関する意識や考えについて聞かせてください。次の文章にあなたの考えや意識はどの程度一致しますか。その一致の程度を7段階で評価し、適切な数字に○をつけてください。なお1に近づくほど一致する程度が弱く、7に近づくほど一致する程度が強いとします。

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 読書が好き | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 暇があれば本を読みます | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 国語は好きな科目です | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 本は読みません | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 本を読むことは面倒です | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 本を読むのは遅いです | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 読書は苦手です | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| レポートは得意です | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 作文は嫌いです | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 日記(含むブログ)を書いている | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 人付き合いは得意です | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 特定の作家の本をよく読む | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 好きな作家がいます | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 年上と話すことが苦手です | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |

新書の早読みが読書意識へ与える影響

2. 早読み、報告書作成の訓練について

この3ヶ月間、早読み、報告書作成をしたことにより、あなたが自分自身についてどのような変化があったと感じているかを教えてください。

2-1. 早読み、読書について

次の早読みや読書の訓練に関する文章にあなたの考えはどの程度一致しますか、その一致の程度を7段階で評価し、適切な数字に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 本を読むことが早くなった | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 本を読むことが好きになった | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 図書館に馴染んだ | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 授業以外にも新書を読んだ | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| この訓練をうけて良かった | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| いろいろな本を知ることができた | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 世界が広がった気がする | |
| 今後も新書を読む気がする | |

2-2. 報告書作成について

次の報告書作成の訓練に関する文章にあなたの考えはどの程度一致しますか、その一致の程度を7段階で評価し、適切な数字に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 報告書を書く自信がついた | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 文章のまとめに自信がついた | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 前よりもレポートの執筆が上手になった | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 読む人のことを意識するようになった | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |
| 変わらない気がする | (弱) 1-2-3-4-5-6-7 (強) |

3. 訓練への感想

早読みの訓練への感想や意見を自由に書いてください。